

令和7年度「知事と市町長の円卓対話」（志摩市、南伊勢町）概要

- 1 対話市町 志摩市（志摩市長 ^{はしづめ} 橋爪 ^{まさよし} 政吉）
南伊勢町（南伊勢町長 ^{うえむら} 上村 ^{ひさひと} 久仁）
- 2 対話日時 令和7年6月27日（金）10時30分から11時30分
- 3 対話場所 宿田曾体育館
（度会郡南伊勢町田曾浦3813番地）
- 4 視察場所 宿田曾漁港、NPO法人わがら
- 5 対話項目
（1）第44回全国豊かな海づくり大会の成功に向けて
（2）大会後の水産業の未来について

6 対話概要

対話項目（1）第44回全国豊かな海づくり大会の成功に向けて

（志摩市長）

まず現状からお話をさせていただければと思います。令和6年3月26日に志摩市のさまざまな団体の皆様のご協力をいただき、市民会議を構成させていただき、準備をスタートさせていただきました。そして令和7年1月25日には阿児アリーナにてキックオフイベントを実施させていただきました。

この時は、市内外から約2,500名の方々にご参加をいただき、全国豊かな海づくり大会が志摩市と南伊勢町で開催されるということ、まずは、市民の方々に知っていただくということで開催したところです。

その後、令和7年4月27日には、志摩市にある2つの有人離島の1つである間崎島というところで200日前イベントを開催し、市内の小学生の子どもたちに、間崎島や英虞湾の素晴らしさというものを知っていただく取組をしています。

ここからは、少し課題として思う部分についてご紹介させていただきます。まずは全国豊かな海づくり大会の意義についてです。市民には気運醸成に向けた情報提供、情報発信が必要になってくると感じております。そして大会成功に向けては、三重県や南伊勢町とのさらなる連携が大変重要であるとあらためて認識を深めたところです。

また、令和7年度は、「海づくりイヤー」ということで、キャッチフレーズも作り、市内各地においてさまざまなイベントを実施していく「全国豊かな海づくり大会令和7年度スケジュール（予定）」というものを作成し、右肩上がりに市民の皆さんも含め、地域の皆さんが海づくり大会に向けて、気運醸成をしっかりと高めていこうということで時系列に取組を一覧表にさせていただいたところ

です。

今回、令和7年6月15日には、大会150日前イベントということで、「志摩の豊かな海づくりフェスタ」と題して、さかなクンを呼ばせていただいて、放流等々も行わせていただきました。この時は、マダイとヒラメを放流させていたんですが、マダイやヒラメの小さい稚魚を初めて見たという子どもたちもいました。やはり、こういった形で海の資源の大切さであるとか、自分たちが普通に食しているものは、海が育んでくれているということを十分知っていた、そのようなきっかけになったのではないかと感じております。地域の皆さんには、さかなクンの知識、思い、考え方というものもしっかりと受けとめていただいて、海づくり大会が開催されるということの意味であるとか必要性というものを、このイベントを通じて大変深めていただいたものと感じております。あらためて、この150日前イベントの開催により、市民の皆さんの気運醸成につながったのではないかと感じております。今後も、このスケジュールに沿ってしっかりと進めさせていただこうと思っております。

そして、式典会場でもあります阿児アリーナについては、今日、ご参加されている志摩市議会議員の皆さんにもご理解をいただき、しっかりと整備を進めているところです。やはり、不備があってはだめなので、しっかりと繰り返し繰り返し、確認しながら、今、整備を進めているところです。

そして今回は、やはり志摩市として、これから先、取り組んでいきたい内容であるとか、また、知事にもご意見をいただきながら、先ほどもお話をさせていただきましたが、三重県や南伊勢町との連携をより強固なものにして、さらなる気運醸成、また大会PRを進めていきたいということが1点。そして、海づくり大会を大きなフックとして、国内外からの観光誘客も含め、しっかりと南伊勢町とタッグを組みながら、三重県の支援もいただきながら進めていきたいと思いますので、ぜひ、知事からご意見をいただければと思います。

（南伊勢町長）

全国豊かな海づくり大会の成功に向けてということで、南伊勢町では、令和7年5月31日に「豊かな海づくりフェスタ」を開催するなど、本大会に向けて、町を挙げて、また三重県や志摩市にもご協力をいただきながら、気運醸成のためにさまざまなイベントを行っていくこととしています。

また、令和7年は、南伊勢町合併20周年の年でもあります。このような年に、この全国豊かな海づくり大会が開催され、宿田曾漁港が会場となることは大変光栄に思っています。

まさに令和7年5月、この宿田曾体育館で地域の皆さんが主催して開催された宿田曾大運動会においても、町制20周年と豊かな海づくり大会にちなんだ種

目を盛り込んでいただき、大いに盛り上がっていただいたところでもあります。

私も参加をさせていただきましたが、このように官民挙げて気運醸成が進んでいることをうれしく、またありがたく思っています。また、放流と海上歓迎パレードの会場整備も三重県、志摩市の支援もいただきながら着々と進んでいます。

このような中、本大会の成功に向けて、今、志摩市長もお話しされましたけれども、三重県と共に取り組みたいことについて3点申し上げたいと思います。

1点目は、県と市町の連携体制のさらなる強化についてです。大会主催である三重県と志摩市・南伊勢町の連携は日を迫うごとに進んでいると実感しておりますが、これから、どんどんタイトになってくるスケジュールの中で、万が一にも、対応が後手に回ったり、滞ることがあってはならないと考えております。そのためには、県と市町それぞれの実行委員会の役割を明確にし、積極的かつスピード感を持って連携し、情報共有を行っていかねばならないと思っております。知事も志摩市長も一緒の考えだと思いますが、今後より一層、しっかりと力を合わせ、必ず成功に導きたいと考えておりますので、まずはこれが1点目となります。

2点目は、財政面についてです。全国豊かな海づくり大会の安全・安心な開催に向けて、必須となる会場整備等の経費には財源措置がなく、南伊勢町としても財政負担が必要になってくるものと考えております。このことは、三重県におかれても、おそらく同様かと思いますが、この会場整備や大会関連の経費については、特別交付税など何らかの財政支援の対象となるように強く国への働きかけをお願いしたいと思います。これは、志摩市・南伊勢町においても一生懸命に要望活動をしていきますが、一緒になって進めていきたいと考えていますのでよろしく願います。

3点目は、大会を契機とした水産業の振興です。大会を大会として捉えるにとどまらず、これを契機として、水産県三重県、海の町志摩市・南伊勢町の魅力をさらに輝かせ、広く発信しなければならないと考えております。南伊勢町としては、かつて日本一のカツオマグロ遠洋漁業の基地として栄え、現在は釣りスポットとして人気を博す県営宿田曾漁港の歴史的背景と価値を、未来へこれをつないでいかなければならないと考えています。県の取組にも期待していますが、引き続き、連携を図りながら進めていきたいと考えていますので、より一層のご支援をよろしく願います。

(知事)

志摩市と南伊勢町には、全国豊かな海づくり大会の開催に向けてご努力をいただいております、まずは心から御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとう

ございます。

その上で、海づくり大会の成功に向けて、志摩市から2つ、情報提供をしっかりとやっていきましょう、観光の振興もやりましょうというお話をいただきました。南伊勢町からは3点、連携体制の強化、会場の整備費の話、それから大会を契機に盛り上げていこうということで、もうおっしゃる通りでありまして全く同じ気持ちであります。

まず、志摩市と南伊勢町、そして三重県とが連携をしないといけないということは当たり前のことでありますし、今以上に、連携をしていきたいと思っています。

それから、PRです。これはとっても大事で、今日おいでになっておられるマスコミの皆さんにもお願いをしたいのですが、これからもいろんなイベントを志摩市も、そして南伊勢町もやるというお話をいただきました。なるべく三重県もそこに関与していき、多くの記事にしていいただければありがたいと思います。それから、令和7年11月の全国豊かな海づくり大会の本番までの間にも、実はいろいろな行事が三重県でもあります。知事会議とかもありますので、できたらそういうところでも南伊勢町、志摩市という形で、いかに本大会まで盛り上げていくかということは、とても大事なことになるので、三重県も協力をさせていただきたいと思います。

それから、観光について、海づくり大会というのは皆さんにもご案内のとおり4大行幸啓で両陛下がおいでになる行事のうちの1つです。全国の注目が集まります。その時に大きくPRをすれば、海づくり大会の前も、後も、たくさんの観光客の方が来られる可能性がありますので、観光PRというのはやっていけないといけません。観光という意味で言いますと、この地域はやっぱおいしい海産物があります。「食」というのにテーマを絞ってもいいと思いますし、「海」ということでテーマを絞ってもいいと思います。「自然」というのもありますし、そういったところで観光PRをしっかりと三重県もやっていきたいと思っています。最近、黒潮の大蛇行も、ようやく影響がなくなってきたという話があり、水温も徐々にではあると思いますが戻ってくると思います。そうするとまた、おいしい海産物が戻ってくると思いますので、そういったところをしっかりとPRしていきたいと思います。

それから、未来に向けてということで、南伊勢町長のお話もありました。令和5年には、河村瑞賢のふるさとであります東宮橋の開通式に來させていただきました。その時に、一番記憶に残ってるのは、近くの幼稚園、保育園の子どもが来て、風船を飛ばしていただいたことで、すごく印象に残りました。やっぱり子どもたちがこの地域をつなげていってくれるということで、そうした子どもたちの活躍の場というのも全国豊かな海づくり大会で作ってきたいと思っています。

三重県は、随分前から、子ども・子育てにも注力しているところでもありますので、しっかりと、この地域で育っていく子どもたちが健やかに育つようにやっていきたいと思っています。

最後に会場整備費のことです。これは大変なご苦勞をさせていただいている南伊勢町、志摩市にも整備費がかかるものと思います。国への要望というのは一緒にしっかりとやっていきたいと思いますが、やはり三重県としても、対象市町に光が当たって、県がプレーアップできる機会でもあります。もちろん県の財政も全然豊かではないので、できることは限られていますが、やはり汗をかいたところに報いることをやっていかないといけないと思っております。例えば、漁港周辺の草刈をやるのも大変なことだと思いますし、今日も視察しましたが、宿田曾漁港の会場は、随分綺麗になっていました。まだ、その周辺部の舗装補修はしないといけないとか、或いは転落防止柵を整備していかないと危険なところがあるというようなことも伺っております。また、トイレの整備もあります。時期的な課題はありますが、先ほども言いましたが、三重県も財政が全然豊かではありません。そのような中で、やはり汗をかいたところに報いるようなやり方をやっていきたいと思っています。時期はまたご相談させていただきたいと思いますが、しっかりと、三重県も応えていきたいと思っています。国に対して要望したらいいと、これはちょっと県のよくないところでもありまして、最後に矛先を変えて国に言いましょうって、そんなこと言っててもだめなので、やっぱり県がやらなきゃいけないところはやるという形でやらせていただきます。地元の方にもご協力をいただいておりますので、また、市町の負担も幾分かまたお願いすることもあると思いますが、しっかりと三重県も応分の負担をさせていただきたいと思っております。

（南伊勢町長）

今も知事からいただいたんですが、本当にありがたいお言葉ばかりだと思います。財政が厳しいのはよくわかっていますので、汗をかいたところにつくだらうと、これを期待しています。ありがとうございます。

（志摩市長）

今回、南伊勢町と志摩市が受けさせていただいたことに非常に意味があると思っています。志摩市では、南伊勢町で水揚げされる、もちろん志摩市で水揚げされる魚も観光施設で使わせていただいておりますが、南伊勢町からも海の資源を提供いただいて観光振興というのが成り立っているというところがあります。知事もお話しいただきましたおいしいお魚を食べられる場所というのが、やはり南伊勢町であり、志摩市であると思います。そういったことを提供する場所が、

志摩市には一定あるということも自負させていただいており、観光振興をしっかりとやっていくことが、これからの漁業振興にもつながってくると思っています。ぜひ、知事のお考えのとおり観光振興も進めていただき、しっかりと、その先には漁業振興の飛躍というものもあるということを志摩市・南伊勢町も感じておりますので、ぜひ、しっかりとタッグを組ませていただければと思います。

対話項目（２）大会後の水産業の未来について

（南伊勢町長）

大会後の水産業の未来についてということで、ここでは２つのことをテーマにしたいと考えています。

まず１つ目は、海業の振興についてです。南伊勢町では、水産業を取り巻く現状と課題を大きく次の３点と捉えています。まず第１に黒潮の大蛇行や気候変動による海水温上昇。第２は藻場の消失。そして第３は後継者不足です。特に藻場再生では、南伊勢町による水産多面的機能発揮対策事業のほか、産官学連携による藻場の再生、またＮＰＯ法人などの民間の力を取り入れた取組を今進めています。また、後継者問題については、以前、知事にもご案内をさせていただきましたが、南伊勢町、三重外湾漁業協同組合、水産事業者、フィッシャーマン・ジャパンなどとタッグを組んで活動することにより、着実に後継者が生まれています。数字的には小さいかもしれませんが、これは今後に向けて、確かな第一歩だと、確かな成果であると実感しているところです。

このような活動に加え、さらに漁獲量の減少もふまえて水産業が稼げる産業となるためには、ビジネスモデルの転換が必要であると考えています。そこで、南伊勢町による海業へのアプローチをまとめさせていただきました。獲って売るという形から、漁業プラス観光、そして教育、環境体験など、海を生かして、新しい経済と暮らしをつくる海業への転換こそが、その鍵になることは確実であります。しかし、まだまだ初動段階でありまして、南伊勢町においても、ようやくスタートラインが見えたところでもあります。そこで、海業への取組への支援、例えば、成功事例の共有であるとか、相談体制の構築、計画策定の支援、国庫補助への上乗せなど、初動期に必要な適切なサポートを三重県からいただければ大変心強く思うところであります。

２つ目は、漁港施設や付随施設の充実についてです。全国豊かな海づくり大会の会場は、宿田曾漁港公園に隣接しており、堤防釣りの観光客で賑わいますが、漁港インフラの老朽化が進行しているため、せっかくの漁港周辺の空間が有効利用できず、地域住民にとっても、観光客にとっても、十分に利用できているとは言い難い状況になっています。例えば、漁港公園整備、特にトイレなどの充実、またその他の老朽化施設の改修においても、先ほどもお話ししましたが、海業へ

の転換という視点、そしてやはり何よりも、防災の視点を強化して、漁港施設やその周辺の有効活用について進めていきたいと考えています。

そこで特に、この宿田曾漁港は県営漁港でもあることから、県町協働で、これらのことを進めていくためにも、漁港を抱える市町や管轄漁協への継続的な支援をお願いしたいと考えています。この点もよろしくお願いします。

（志摩市長）

ここでは、まず現状ということでお話をさせていただきます。先ほど南伊勢町長もお話しされたとおり、黒潮大蛇行の影響は、正直非常に厳しい状況です。磯焼けも進み、水産業の存続が危機的な状況であるといっても過言ではないぐらいの状況です。そういった状況下において、漁業者さんの中には、もう他の仕事をするというようなことを言われる漁業者さんも見えます。やはりそういったところにまでいってしまうと、やはり担い手不足の部分には、どうしても拍車がかかってしまい、今、かなり厳しい状況に志摩市は置かれております。

課題としては、やはりこういった状況を打破するために、環境の変化にどう対応していくのかということ、やはりこれまでの水産業を取り戻すというよりは、先ほど南伊勢町長もお話しされました新たなチャレンジをする場というのを作っていくことも非常に大切なのではないかと感じています。やはり元に戻すという作業はかなり難しいと思いますので、どう変化に対応するか、どうチャレンジできる場を提供できるかということが、基礎自治体の仕事なのかなとも感じています。

そのような中、志摩市の主要産業である観光業にも大きな影響が出てきています。最初の項目でもお話をしましたが、やはり水産業の衰退は観光業の衰退につながるということは事実として起こっていますので、こういった水産業の基盤をしっかりと整備し、また、繁栄をさせていくということが、観光業の形をしっかりと押し上げていくということにもつながるのではと感じています。

令和7年度の取組としては、磯焼け対策について、三重県水産研究所と連携をして、仕切り網を活用しながら核藻場をどう成長させるのかについて研究調査を行っていくほか、真珠養殖経営安定化支援事業ということで、アコヤ貝を稚貝から育てる取組をしたり、水産業の担い手受入れ推進事業なども実施しています。さまざまな事業をあれでもかこれでもかというぐらい、何が正解かわかりませんが、やはり1回やってみるということが大事ということも感じながら、いろいろ進めさせていただいています。

この全国豊かな海づくり大会というものが今回非常に大きなきっかけになり、今後も引き続き、三重県水産研究所と連携して磯焼け対策等の調査研究を行っていききたいと思いますし、気象庁も少し黒潮の蛇行が改善されるんじゃないか

という1つの光明も出していただいていますので、そういった部分も含めて、改善したときに何かやるのではなくて、改善するであろうとの兆しがあるのであれば、その前に、さまざまな取組を進めたいというようなことも思っています。

新たな担い手確保に向けては、三重県立水産高校との連携を強化して、魅力ある学校づくりをしていきたいとも感じています。こちらにも三重県との連携が大切だと思いますし、水産高校の方々とはさまざまな取組を一緒にさせていただいています。地域に興味があるとか、地域のことが大好きという生徒さんもお見えになるので、しっかりとそういった方々に担い手になっていただきたいという思いのもとで、三重県と連携させていただければと思います。

3つ目は、持続可能な水産業の実現に向けて、やはり新たな可能性として、陸上養殖等々を担う企業の誘致というのは、注力して取り組みたいと思っていますので、こちらのご意見も聞かせていただければと思います。

そして4つ目ですが、あらためて、志摩市は「真珠養殖産業発祥の地」ということで、志摩市がしっかりと先頭に立って、こういった意味を発信して、真珠養殖の再生を図っていききたいと思っています。

やはり全てに総じて感じているのが、こういったことにも取り組み、国内外からの観光誘客にも注力をして、水産業の押し上げというものを、観光業を通じて行っていききたいと思っています。ぜひ知事のご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いします。

(知事)

はい、ありがとうございます。たくさん言われましたので、ちょっとまとめたりしながら、答えさせていただこうと思っています。

まず、両市町に共通するのは後継者の問題です。これは、どこでも問題になっておりまして、実は、水産業だけではありません。今、担い手不足というのは、ものづくりのところでも問題になっています。この前、大紀町に行かせていただいたとき、そこでは岐阜からとか、兵庫からとか移住で来られた方々がおられ、今、水産業、漁業をやっていますっていう人がおいでになりました。これは御浜町でもおられましたし、それから令和5年でしたが、南伊勢町で円卓対話を開催させていただいたときにも、県外から来られた方がおられました。県外の人に、ここへ来ていただいて、移住ってことは人口も増えますので、そういった方に水産業を担っていただくのはやっぱり大事な施策ではないかなと思います。そういう意味で、取り組んでおられる南伊勢町と志摩市に感謝したいと思いますし、三重県としても、移住については、今まで以上に注力していきたいと思っています。

さらには、やはり自分の生まれ育ったところにある水産業をお子さんやお孫

さんに継いでもらうことはとっても大事で、南伊勢町では、独自に支援策も作っているところで、三重県としても支援をさせていただいていますが、南伊勢町で発想されたものが制度としてでき上がっているということは本当に立派なことだと思っています。

また、本日は、「NPO法人わがら」も視察させていただきました。廃校を利用して、校庭にキャンプ場も作られています。実はこれと同じような発想で、以前、私は日本全国の海を担当していた仕事の局長をやっていたことがあります。海上保安庁とか自動車局だけちょっと取り上げられていますけど、海担当の局長もやっており、その時に、長崎の壱岐に視察に行きました。同じように廃校を利用して多くの方を呼んでおられました。長崎県の人にも来てますし、福岡県とか東京都などからも人を呼んでおられました。これは先ほど志摩市長がお話しされた観光にもつながるかもしれませんが、ここですごいと思ったのは、そこでは校庭にキャンプ場を作って、グランピングというキャンプ場を誘致されています。これは三重県内でいうといなべ市で開業されているデンマークの企業ですけど、そこに多くの方が来ておられます。そして、レストランを廃校の中に作られて、そこで完結するようになっていきます。完結するのがよいのかもありませんが、今は泊食分離と言われているので、施設外の食堂の人にも潤ってもらうため、みんな外で食事するのもいいと思います。南伊勢町でもよく考えておられて、グランピングはこれからチャレンジしてもいいかなとは思いましたが、ここでは施設外の食堂の人にも潤ってもらうっていうやり方をされて、加えて給食室も閉鎖されてるのかなと思って見させていただいたら、綺麗な食器も調理道具も並んでおり、そこでは自由に使っていただけるというよい形をとっておられました。先ほども言いましたが、移住につなげるためにはまずここに来てもらわないといけないということで、それから始められたらとってもいいサイクルになっていくと思ったところです。

それから漁業に関して、志摩市長から黒潮の大蛇行の話がありました。気象庁からは収まりつつあるんじゃないかということで、これは志摩市長がお話しされたように収まる前から準備しておくことは大事です。ただ、これまでも海担当の事務局長をさせていただきましたが、もう水温の上昇だけは人の力では何ともなりません。誰がやっても無理だと思います。そこでは緩和と適応というもののしかないんです。水温が上がってくるのを如何に緩和するのか。例えば真珠でいうとアコヤ貝がへい死し、それをちょっとでも減らすためには、アコヤ貝を吊るして、あまり揺らさないような養殖の仕方を考える、これが緩和です。そして、適応というのは、今ある魚種ではなかなか難しいけれども、温かい海でも育つ魚がいるわけです。その魚の養殖をすとかを考えていかなければいけないと思いますし、適応のやり方の1つとして、陸上養殖というのはあると思います。こ

の前ありがたいことに、津市の山の方に魚を陸上で養殖しようとする企業が来られましたが、そういう養殖は海が近い方がメリットがあるのではないかという意味で言うと、先ほど志摩市長がお話しされましたけど志摩市とか南伊勢町でやってもらっているのではないかという気もしています。農林水産省も、採取漁業から養殖漁業に大きく舵を切っております。平成2年には、日本は世界最大の漁獲量を誇っていましたが、それはどんどん落ちてきており、代わりに、養殖業が上がってきているので、そちらに目を向けるというのは1つのやり方だと思っています。三重県も協力をさせていただきたいと思います。

それから担い手の件で、先ほど志摩市長から三重県立水産高校と一緒にやっていただいたこと、これは感謝申し上げたいと思います。これからも海で働きたいという人を、そういった卒業生も含めまして、ぜひ、多くの担い手を確保していきたいと思っています。

磯焼け対策で少しお話をさせていただくと、先ほど志摩市長からもお話がありました。志摩市で食害防止の関係を三重県水産研究所と連携してやっていただいております。これは引き続き進めていきたいと思っています。併せて、先ほどお話ししましたが、黒潮大蛇行が収まるのであれば、それを見通して、藻場の再生とかにもしっかりと対応していきたいと思っています。

それから、南伊勢町長からお話をいただきました老朽化施設については、先ほども少しお答えさせていただきましたが、さまざまな支援の仕方があります。トイレについては、ちょっと時期的な部分もありますが、三重県もしっかりとやっていきたいと思っています。それから、どの補助率がよいのかを比較検討していただきたいと思っています。相談には乗らせていただきますので、例えば漁港を整備するときには、県庁には三重県の漁業をしっかりと守るためのチームがあります。ここでは、支援をするということで補助制度があります。その補助制度の補助率がよいのか、或いは、観光の補助が使える可能性もあります。そしてもう1つ、防災の補助金は令和7年度に額も使えるメニューも増やしていますので、それもぜひご活用していただければと思います。どの補助金が一番使い勝手がよいのかを見ていただいて、ご活用いただければと思います。

そして最後に、真珠のお話がありました。三重県といえば真珠。御木本幸吉です。今、開催されている大阪・関西万博ですが、その関西パビリオンの中に三重県ブースというのを出展しており、7月の終わりからミキモト真珠さんのご協力をいただいて、真珠で作った「自由の鐘」を展示させていただきます。1万個を超える真珠、300個を超えるダイヤがちりばめられておりますので、ぜひ皆さん見に行ってくださいと思います。この展示は御木本孝吉さんが、1939年の日米開戦の前に、アメリカと日本が仲良くなるようにとニューヨークで開かれた万博に展示をされたそのものを展示することにしてます。真珠というのは

三重県を代表する代表的なお土産物であり、海産物であります。今、特に多くの外国の方々が日本にいられています。ちょっと三重県の来訪者数が少ないのでこれから頑張っていけますが、買っていかれるものとして、最高級のお土産が真珠だと思います。これからも真珠を振興していくことは非常に重要なことで、令和5年に開催された伊勢志摩G7サミットの交通大臣会合のとき、志摩市ではベビーパールというのが特産品だと聞いております。5ミリ未満の小さなサイズの真珠というふうに聞いていますが、そこでプレゼント品としてその真珠を使わせていただきました。これ実は私も、いただくことになってたんですけど、急遽ウクライナの副首相がおいでになられたので、私の分は副首相に、ウクライナに渡りしましたが、多分ウクライナで今、三重県の真珠のよさを宣伝してくれているのではないかと思います。伊勢志摩G7サミットの交通大臣の皆さんには大変好評でしたので、これからも、先ほどの海水温の問題もありますが、こういった形でさらに真珠を振興することができるのか、欧米のバイヤーからも非常に人気があると聞いていますので、観光の面も含めて振興していきたいと思っています。

（志摩市長）

ありがとうございました。お話しいただいたことは、しっかりと進めていきたいと思っています。引き続き、力強い支援をお願いできればと思います。ありがとうございます。

（南伊勢町長）

力強いということで、私も同感です。今言われたようないろんなメニューがあることは存じているので、壁を作らないようにやってもらいたいということをお願いします。

また、先ほどから黒潮蛇行の話があり、これが少し収まってきたということですが、収まってただけではダメなんです。元々漁ができた魚が戻ってこそ、初めて蛇行が収まったことになると思っており、そこを注視して進んでいきたいと思っています。今、志摩市長からもお話がありましたが、観光振興もそうなんです、南伊勢町には本当に「食」がたくさんあります。だから、この件については、南伊勢町だから、志摩市だからではなくて、もう1つの町とか市でできる時代は終わってしまったと感じております。先般、道路の要望で志摩市長と一緒にいったとき、知事にもお伝えしたと思いますが、三重県の要望は、全国で3本の指に入ると国土交通省の方から言われました。これは知事の努力が、このようなことにつながっているのかと思いますが、市町においても、どの分野でも、地域との連携を図りながら、今後も訴えていきたいと考えています。今日は、南伊勢町議

会議員も全員お越しいただいておりますけど、委員会と共有してさらに一層進めていきたいと考えていますので、また、知事が国へ行かれたときは、この地域のことを伝えていただくようにお願いします。